

五能線は、秋田県東能代駅から青森県川部駅まで続く、長さ 147km の鉄道である。その路線のほとんどは日本海の海岸に沿って続いており、一方の側に岩だらけの海岸線を、もう一方の側に世界自然遺産白神山地の濃い森に覆われた山頂を間近に見ることができる。五能線では、大きな窓のついた特別列車「リゾートしらかみ」が運行されており、単なる電車での移動を多彩な地域の旅行体験に変えるためにデザインされた、その他の多くの特色を持っている。

リゾートしらかみには 3 種類の車両編成がある。白神山地の生態系の中心であるブナの木にちなんで名付けられた緑色の列車、「樺（ブナ）」、十二湖駅近くの紺碧の池にちなんで名付けられた青い列車、「青池」。そして、この地域で見られる赤いとさかのついた黒色のキツツキ、クマゲラにちなんで名付けられた赤い縞模様の列車、「くまげら」である。

各列車は、ゆったりとした 3 両の普通車と、ボックス席を備えた車両 1 両で編成されている。ボックス席の各コンパートメントには中央テーブルがあり、シートはフルフラットにすることができ、乗客が靴を脱いで足を伸ばすことができるようになっている。車内は秋田産のスギなど、地元産の木材に覆われている。ライブパフォーマンスが行われたりする展望室もあり、地域の工芸品が展示されることもある。

パフォーマンスには、三味線（伝統的な弦楽器）の生演奏、地元の方言による語り、青森の伝統的な人形芝居などがある。「樺（ブナ）」には、地酒を味わえるバーエリアがある。提供される内容は列車ごとに異なる。詳しくは JR 東日本のホームページに掲載されている。

乗客が景色を堪能できるよう、列車はゆったりとしたペースで走る。景勝地では、乗客が写真を撮ることができるよう、さらに減速する。路線上に多くある観光名所の中に、港町の能代市がある。バスケットボールの強豪高校があることで全国的に有名で、そのチームは、全国大会を 55 回以上制覇したことがある。能代駅のホームにはバスケットゴールがあり、シュートを決めると記念品がもらえる。

白神山地のブナの原生林を訪れるには、八峰町にある駅から行くのが最短である。ここでは、ハイキングや温泉を楽しむことができる。八峰町のあきた白神駅から 2 駅北上すると十二湖駅がある。そこには丘に囲まれた 33 の湖沼群があり、それらは 1704 年に発生した地震により形成された。文字通り「青い池」を意味する「青池」は、これらの中で最も見ごたえがあり、曇りの日には鮮やかな青い色が濃い紺色に変わる。池付近をスタート地点とするさまざまな長さのハイキングコースがある。駅から池の近くまでバスが運行しているが、11 月下旬から 3 月までは道路が通行止めになる。

リゾートしらかみは、全席が指定席となっており、Ekinet のウェブサイトから英語で予約することができる。普通車の「A」席とすべてのボックス席からは、進行方向に関わらず海の景色を眺めることができる。無料の Wi-Fi が利用可能で、すべての車両で禁煙となっている。